

## 第2章 研究の概要

図-2.1.1 に本研究のフローを示す。

第1章では、本研究の背景を述べる。

第2章では、本研究の目的と構成を述べる。

第3章では、耐久性のばらつきの要因及び作業の確実性や容易さを把握するために、全国の道路橋の定期点検結果に基づき、損傷が大きい事例や供用年数がさほど長期に達していないにも関わらず補修等が必要とされた橋について、損傷の種類や想定される要因を網羅的に分析し、部位ごとに劣化のばらつきの形態や原因に特徴があるかどうかを考察した。また、作業の確実性や容易さについて、国が管理する道路橋に関する定期点検調書に記載のある写真やアンケート調査から網羅的に考察した。

第4章では、第3章で整理した内容について、基準化の方法論やあり方について考察する。

第5章では、第3章で抽出した構造上の課題から、鋼道路橋で新たに望まれる構造細目や仕様に関して既往資料の調査や検証実験を行った。

第6章では、第3章で抽出した構造上の課題から、コンクリート道路橋で新たに望まれる構造細目や仕様に関して既往資料の調査や検証実験を行った。

第7章では、本研究で得られた成果をとりまとめた。

巻末には、これらの研究成果や本研究の実施過程で収集した既往の研究や工夫を試みた事例を、実務で参考となるようにディテール集の形でまとめてみた。これらの効果、評価は時間が必要であり、定まったものではないので、できる工夫を見極めて積極的に取り入れられていくことを期待するものである。

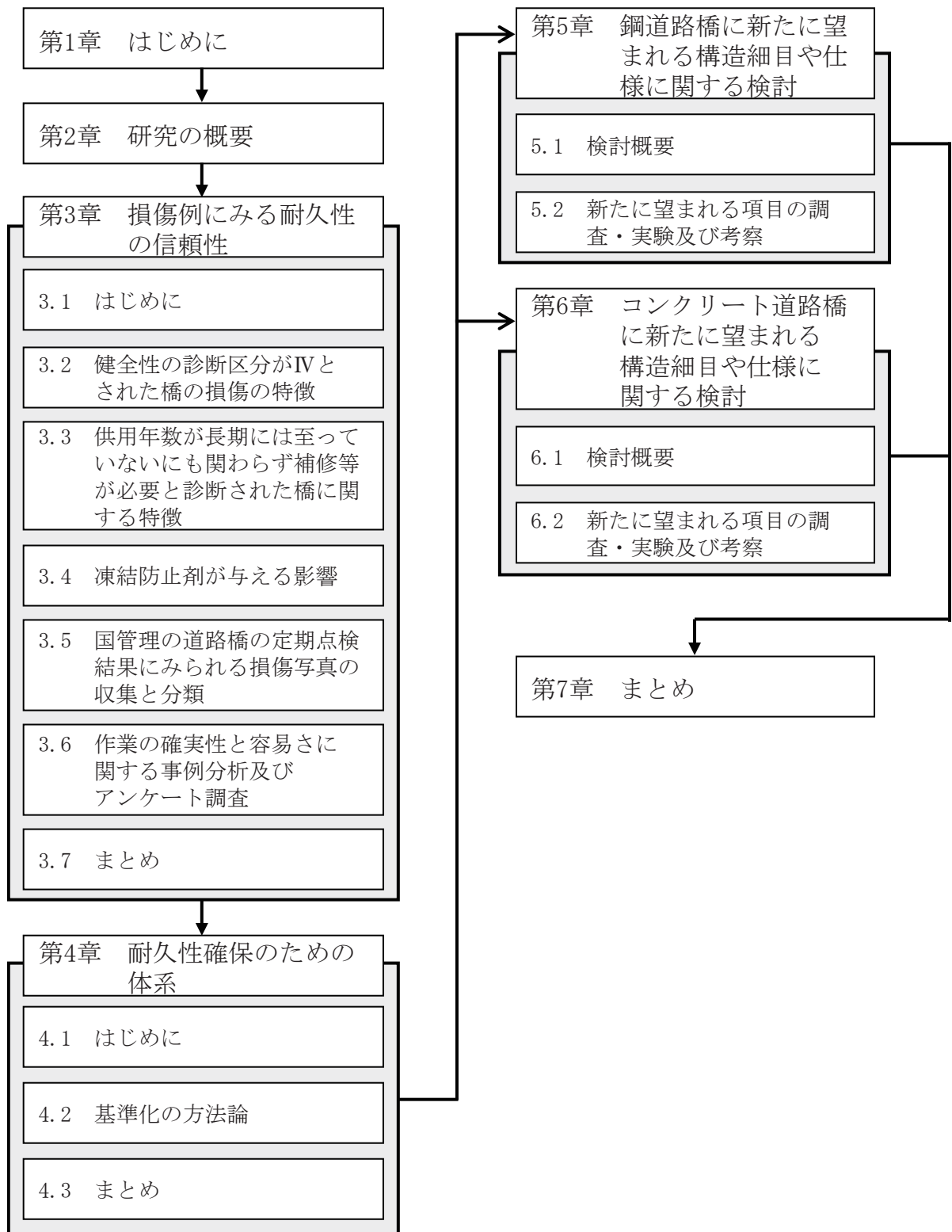


図-2.1.1 研究フローと報告書の構成